

2015 年 10 月 30 日(金)19:30～20:15

【出席者】

取締役 常務執行役員 育薬本部長 村上 誠一
常務執行役員 広報部担当 村松 実
取締役 執行役員 経理財務部長 田原 永三
執行役員 営業本部 副本部長 吉川 哲男

【第 2 四半期決算実績】

Q／業績予想修正を 9 月末に行ったが、今回更に実績が良かった背景は。

A／売上高と販管費で差が出た。売上高については、ジレニアおよびインヴォカナの導出先での販売が、当社が見込んだ以上に好調だったため、ロイヤリティ収入が増加。販管費 30 億円減少については、研究開発費の未消化およびメディカゴ社の発生費用の下期ずれ込み等。

【通期業績予想】

Q／販管費の通期予想増加の理由は。米国事業展開を見据えた費用の増加か、来期以降の展開に関わる費用か。また、米国展開を見据えた研究開発トレンドの変化が今後あるか。

A／米国事業展開の検討や日本から米国への社員の異動等、米国展開の費用が含まれている。下期の増加は一時的なものも含む。

Q／販管費は使い切るのか。

A／研究開発費の予算については、少し余裕があると思う。他は、使い切ると考えている。

【ラジカット／ALS 適応追加】

海外

Q／ラジカットは米国でいつ申請するのか。年内か年度内か。

A／出来るだけ早く申請したい。年内は難しいかもしれない。年度内か、年度をこえるかは明確ではない。

Q／FDA との話し合いで、申請パッケージの合意はできているのか。

A／現在交渉中。詳細はお話できない。

Q／欧州においても ALS はオーファンドラッグ指定を受けているが、今後の進め方はどのように考えているか。

A／米国優先で進めている。欧州については、米国の目処がついた時点で考える。

Q／ラジカットの米国申請状況について、FDA とのやり取りの中で状況が変わったのか。時間を要している理由は何か。

A／特に状況が変わったわけではない。申請にはそれなりの時間を要する。FDA とは順調にミーティング等を進めている。

国内

Q／現状について教えて欲しい。

A／投与患者さんは、約 800 例まで増えている。

Q／800 例の投与患者さんの重症度の内訳について教えて欲しい。

A／現時点では、内訳については把握できていない。

Q／通期の業績予想を 54 億円から 62 億円に増額しているが、ALS 患者さんへの投与拡大を織り込んだのか。

A／織り込んでいますが、その金額についてはお答えできない。

【営業】

Q／レミケードの売上減少はバイオシミラーの影響か。

A／バイオシミラーの影響は数量ベースで 1%程度、大きな影響はない。関節リウマチや炎症性腸疾患市場の競争激化が一因。足元の売上減速の懸念はない。

Q／テネリアの新スキームについて教えて欲しい。

A／10 月 1 日以降、第一三共のみが販売する。共同プロモーションは従来通り。

Q／テネリアの新スキームの売上の中味は何か。

A／当社から第一三共への販売額と、第一三共から受け取るプロモーションフィーの合計。開示は今回が最初であり、詳細は決算補足説明資料をご覧ください。

Q／テネリアの販売方法変更の目的は何か。

A／販売方法を変更した一番の目的は、販売を一本化することにより、卸施策を通じた一般開業医販路を強化するため。販売方法を変更しても、利益構造に変更は無い。

Q／国内医療用医薬品の売上高が当初公表予想に対して上期 65 億円上振れたが、通期では 20 億円の上振れに留まっている。テネリアの販売方法変更の影響があるのか。

A／販売方法変更の影響は無い。

【開発】

MT-1303

Q／MT-1303 の有効性は既存品と比較しベネフィットがあるか、どのような位置づけか。

A／MT-1303 は S1P 受容体サブタイプに対する選択性が高いので安全性が高い。多発性硬化症という病気に S1P 受容体拮抗薬が定番となっているが、それ以外、例えば、消化器病への展開などは、やはり安全性が高いというのは重要な話であると考えている。

Q／御社は MT-1303 の有効性についてベネフィットがないと捉えているわけではないか。

A／多発性硬化症については類薬と同等以上の有効性があると考えている。また、他疾患については今後証明していく。

Q／投薬の時間はいつか。

A／午前中。

Q/10月の学会発表で示された投与4週後のデータでは、プラセボ群に対して心拍数が低下しているように見えるが大丈夫か。

A/データをみている限り、少し下がっているようには見えるが、大きな影響はないものとみている。

Q/心拍数のモニタリングを不要とする可能性について教えて欲しい。

A/今後はバイオジェン社が米国開発を進めていくので、一緒に検討していきたい。

Q/御社が留保している共同プロモーションの経済条件についてガイダンスして欲しい。

A/お答えできない。

Q/バイオジェン社の決算発表時のスライドを見ると、多発性硬化症よりは潰瘍性大腸炎やクローン病など他の疾患に優先順位があるように見えるが、御社の見解を教えて欲しい。

A/バイオジェン社は、潰瘍性大腸炎やクローン病に優先順位を置いているが、多発性硬化症についても、バイオジェン社にとっては大きなフランチャイズのある領域なので、しっかりと開発を進めてくれると思っている。

Fasinumab

Q/他剤の影響でリジェネロン社が Partial Clinical Hold を受けているようだが、今の状況は。

A/リジェネロン社は Partial Clinical Hold の解除に向けて動いている。当社はそれを前提に導入した。

メディカゴ社エボラ抗体の作製に関するカナダ政府との契約締結について

Q/業績への影響はあるのか。

A/エボラ抗体を短期間に作れることを示すことが目的であり、これをもって業績への大きな影響等は特にはない。

がん領域

Q/今後、がん領域は資源投資する中核領域とするのか。

A/がん領域はこれまでも研究ステージで取り組んでいる。10月1日付の新組織において、がん領域はフロンティア領域と位置づけ、今後がん領域が将来の柱になるか見極める。

【早期退職】

Q/早期退職者数は何名か。

A/募集人数は定めていない。

Q/早期退職の目的は世代間の是正か。

A/薬価改定や GE 浸透等による国内医薬品事業の今後の厳しい経営環境を踏まえた経営体質への移行。

Q/MR を中心とした早期退職か。

A／年齢制限はあるが、部門を限定したものではない。

Q／特別損失に織り込んだ金額の前提となっている予想退職者数は何人か。

A／お答えできない。

【次期中期経営計画】

Q／11月30日の中計発表において、M&A等具体的な米国の事業強化策を打ち出す予定か。

A／現状でお話できることはない。

Q／今期の業績予想が良いので、最初の2～3年は減収減益、その後はジレニアの特許が失効することもあり、業績面は大変厳しいと思うが、カウンターアクションについて何か算段があるのか。

A／中計発表まで、コメントは控える。

以上